

# 俺の決断～第二の人生航路

「逃げたいという気持ちなら辞めるな」。こう語るのは福岡市中央区のベトナムカフェレストラン「ゴンゴン」のオーナー、森山穰(もりやま・みのる、39歳)さん。バブル崩壊後、就職事情は悪化の一途をたどっているが、新卒採用されても3年以内で3人に1人は転職していくという現在。雇用状況が厳しいにもかかわらず、自ら離職する若者へ自分自身の経験からのメッセージを送る。

## 営業の仕事は好きだったが…

森山は福岡県生まれ。大学卒業後、広告の営業職に就いた。フリー・ペーパーの広告を集める仕事で、「少額の協賛もべトナムへの思い入れはひときわ強かった。大学の卒業旅行で東南アジアを巡った。『アジアを最も感じることができる』といつ彼の地では、火炎樹といいう文字とおり炎のような鮮やかな花に魅了された。

森山は離職の決断にあたり、3年ほど悩み、考え抜いた。パワー・ハラスメントという言葉もなかった当時、森山は上司から毎日のようにどう喝といえ汚い怒声を浴びていた。会議での発言や顧客との付き合い方、広告営業のノウハウに至るまでの矛先が向き、心が休まる日はなかった。「この人が死ねば楽になる」とまで思つて言つた。それでも森山は営業の仕事が好きだつた。広告をたくさん集めることができることもあつたといつた。それでも森山は「夢中で働けば夢は忘れる。それくらいで忘れる夢ならその程度のものだ」。そんな気持ちのものだ。命に働いた森山だが、「夢に挑戦したい」という気持ちは大きくなる一方だ

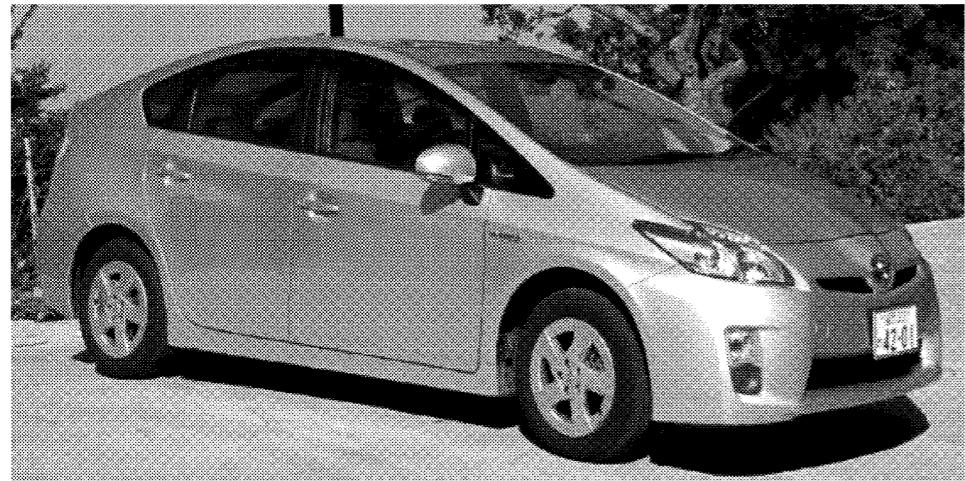
1999年、森山はサラリーマン生

今を耐えられない人は、その先も  
耐えられない



カーリース・レンタカーは時代が求める合理的な「自動車利用システム」です。

**地球環境と経費にやさしいクルマを選ぶなら  
トヨタレンタリース福岡のエコカー**



**トヨタレンタリース福岡**

本社:〒812-0896 福岡市博多区東光寺町1丁目1番1号  
TEL (092) 461-0100(代表) FAX (092) 451-0131  
レンタカー予約 0120-489-446 URL:<http://www.trl-fukuoka.co.jp>



活に別れを告げた。社会人として働いた4年間は、森山にとって自分の思いの大きさを確認するのに必要な時間だった。最後は挑戦しないで後悔したくない」という気持ちが背中を押した。退職後、森山は日本とベトナムを行き来しながら現地の大学で語学を学び、異国の生活と文化を体感した。また大阪のベトナム料理店で店舗運営、調理などのノウハウを習得。08年に念願だったベトナム料理店を故郷の福岡に開業した。「会社をやめてから10年以内に開業する」という目標を無事、達成した。

店は順調に成長し、従業員も抱えるようになつた。人の上に立つ立場になつた今、かつての上司の気持ちがわかるという。「厳しい言葉を投げかけられたが、それでも我慢して指導してくれていたのださう」と。会社勤めのつらさや苦しさを知った上で、森山は現状から逃げ出したいということであれば辞めるなどと言いたい」と若者に訴える。なぜなら「今を耐えられない」からだ。

弱肉強食の飲食業界で森山が日々のプレッシャーに耐えられているのは会社勤めで鍛えられたからだといふ。どんな会社であれ、若い者は学ぶべきことが多い。しかし、それが分かるのにはある程度の経験を積み、社会常識を身につけた後のことだ。そのことに気付く前に会社を辞めてしまう人が多くいることに、森山は胸を痛めている。

(敬称略)



〈名菓 博多の女〉

愛されて三十九年  
博多土産のロングセラー

「博多の女(ひと)」は1972年(昭47)8月5日に発売された。創業者の橋本富市が、バームクーヘンに小豆羊かんを入れた菓子を考案したもので、ソフトな口当たりと甘みを抑えた繊細な味わいが特長。製品のイメージに博多人形を重ね、包装のデザインに採用した。まさに博多の女性の情と細やかさをお菓子で表現させた博多土産のロングセラーである。

博多菓子工房 有限会社 二鶴堂 〒812-0054 福岡市東区馬出6-15-21

御注文 お問い合わせは フリーダイヤルTEL:0120-56-5634 フリーダイヤルFAX:0120-22-3119

お求めは 博多駅キヨスク、マイニング、デイトス、福岡空港、高速SA・PA売店など

<http://www.nikakudou.co.jp/>